

図画工作科学習指導案

指導者 島谷 あゆみ

- 1 日 時 令和6年11月16日(土) 第1校時(9:00~9:45)
- 2 学年・組 小学校複式低学年 計16名(1年男子4名・女子4名, 2年男子4名, 女子4名)
- 3 場 所 小学校複式低学年教室
- 4 題 材 名 「見えない人と一緒に作ってワクワクイメージ」
- 5 題材について

本題材は、小学校学習指導要領(平成29年告示)図画工作A表現(1)ア, B鑑賞(1)ア,〔共通事項〕(1)に重点を置いて指導を行う。本題材では、児童とゲスト(視覚に障害がある人)が音楽と材料を介し、共通感覚である聴覚と触覚を働かせた造形遊びを行う。さまざまな見え方・感じ方をする人が一緒に活動することによって、互いの違いをよさとして捉えたり、他者と対話しながら新たに自分のイメージを広げていったりすることをねらいとする。このねらいに迫るため、学級活動等も活用しながら図画工作科の授業に取り組んでいる。広瀬浩二郎(2022)は、「見え方=見方」の多様性について、見える人と見えない人は二項対立の存在ではなく、両方の間には多彩な見え方のグラデーションが広がっているとし、『『色々な見方』を味方にした人間は、強く柔軟な思考力を持つ』と述べている。本題材はお互いにとって、ふだん使い慣れている感覚の違いだけでなく年齢も所属も異なる他者と出会うきっかけとなる。児童は、造形活動を重ねることで新たな見方や感じ方に気づき、自分のものの見方に自信をもったり異なる価値を発見したりするようになると期待できる。

本学級の児童は、令和6年1月に別のゲストと「絵本を一緒に楽しもう」というめあてで、さわる絵本を用い、手と目で鑑賞活動を行った。また令和6年9月には、特別支援学校の児童と「触ったり見たりしておもしろいところを見つけよう」というめあてで、オンラインで鑑賞活動を行った。このように1年生は1回、2年生は2回、視覚に障がいがある人と関わった経験がある。本学級児童の造形活動に関する実態は次の通りである。8~9割の児童は抵抗なく造形活動に取り組む。一方、中には絵の描き方に自分なりのこだわりがあって毎回30分近く試行錯誤したり、思い切って描きはじめることに抵抗があるためか時間内には完成できず休み時間にも続けてやろうとしたりする児童もいる。とはいえ、「しんぶんしとなかよし」の造形遊びの際は比較的スムーズに活動しはじめ、「わっかでへんしん」の工作・鑑賞では作った衣装を身に付けファッションショーの中で自分の作品を披露する姿も見られた。

指導にあたり、触った感じや様子を伝えるオノマトベに慣れ親しめるよう、給食時間等に宮沢賢治の物語の読み聞かせを聞く機会を設ける。宮沢賢治のオノマトベは、児童の感性に働きかけると考えられる。ゲストとは初対面であるため、十分なアイスブレイクを行うことによって、児童とゲストが思ったことを伝え合える状況にしておく。自己紹介の中で尋ねたいことを質問し合ったり、これまでの造形活動について紹介したり、音楽表現を一緒に楽しんだりする。

本時の導入においては、児童・ゲストが互いの共通感覚である聴覚に働きかける、曲を聴いて造形イメージを膨らませる活動を行う。「ピアノの画家」とも呼ばれる加古隆の『いにしへの響き~パウル・クレアの絵のように~』から、「さえずり機械」という作品を選曲し、音楽的・造形的なイメージを広げられるようにする(加古隆の「隆」の右の旁は、「女」「一」「生」)。アルバムに収められた12曲はどれも聴き手のイメージを広げてくれるが、低学年児童にとって、面白い繰り返しのリズム・好奇心をそそる曲構成・集中力を継続できる曲の長さ・具体や抽象のイメージの思い浮かべやすさといった理由から、この曲を選んだ。演奏時間が3分弱のため、児童が反芻して聴きながら造形表現に向かえる。造形活動で使う材料としては、綿・モール(イガイガ・モコモコ)・スポンジ(ガリガリ・フワフワ)・アルミホイール・緩衝材・木片等を挙げる。基底材としては、土台となるベニヤ板、段ボールを挙げる。用具とし

ては、テープ類・紐・鋏等を挙げる。五感のうち、自分が使いやすい感覚・普段使わない感覚の両方に意識を向けてから本時の活動に入るようにする。目を閉じて触感を確かめ、曲からイメージした事物・聴いた感じを言語化したり触覚に置き換えたりしたらどんな感じだと思うか等を共有することで、児童が造形活動に入り込みやすくする。最終的には皆で一つの立体作品を仕上げるが、児童の両腕が届く範囲に限られること、児童の意識は全体よりも部分に向かうと想定されること、作業台に一定の高さがあった方が児童・両者にとって活動しやすいと考えられることから、4つの段ボールの上に造形イメージを表現したものを、ベニヤ板の上で一つにするという方法で行う。全員が立ち位置を確保した上で、好きな場所に移動しながら造形活動をする。終末には本時の活動を振り返る時間を設ける。イメージを伝え合ったり、新たな見方や感じ方に気付いたりする姿があれば、学習の成果として価値付ける。最終時は鑑賞活動を行う。後日ゲストに児童の鑑賞の様子を伝えたりゲストからのフィードバックを児童に伝えたりし、題材のめあてを達成できるようにする。第1時から第7時までの一連の流れの中で、五感を拓き自分の感覚を信じて造形表現をしたり、自信をもって他者（ゲスト・材料）に主体的に働きかけたりする児童の育成に繋げていく。

6 題材の目標

- (1) 手や体全体の感覚を働かせ、いろいろな形や触った感じなど造形的な視点に気付くとともに、材料や用具を使ってつくったり表したりする。
- (2) 聴いた感じを言語化したり触覚に置き換えて材料を選んだりしながら、イメージを広げる。
- (3) 新たな見方や感じ方に気付いたり、ものの見方に自信をもとうとしたりする。

7 指導計画（全7時間）

次	時	学習内容
1	1～2	めざす子ども像の提示・児童と教師によるルーブリックの作成・音と造形表現を結び付ける活動の試行
	3～4	ゲストとのアイスブレイク（自己紹介・音楽での交流・「さわる絵本」の触察）
2	5～6	造形活動（本時5／7）
3	7	作品鑑賞・振り返り

8 本時の目標

見えない人と一緒に造形活動をすることによって、自分のイメージを広げていく。【思考・判断・表現】

9 「教科本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

教師と児童が共有するルーブリックの作成は次のように行う。児童が紙媒体に記録したものをタブレットで各自撮影し、ロイロノート上の付箋に貼り、ポートフォリオとしてストックしていく。学習後に書いた絵日記等があれば同様に撮影し付箋に追加する。学習ログをいつでも確認できるようにすることで、前時の課題をもとに次時の目標を設定したり、自己評価力を高めていったりできるようにする。

(1) 教師が持つルーブリック

基準	具体的な児童の姿
Ⅲ	感覚を働かせ、対話しながら、イメージを広げたり、自他の違いやよさに気付いたりしている。
Ⅱ	感覚を働かせ、イメージを広げている。（評価規準）
Ⅰ	造形活動をしていない。

手立て【関連する教師の資質能力】

- 自他の違いをよきとして捉えたり他者と対話しながら新たに自分のイメージを広げたりすることができるよう、多様なバックグラウンドを持つ人々が一緒に活動する場面を設け活動環境を整える。【授業構想力】
- 児童が感覚を拓き造形活動に入り込めるよう、曲からイメージした事物や聴いた感じを言語化したり、触覚に置き換えたりしたらどんな感じか等と、声かけを行う。【授業実践力】
- 感覚を働かせる造形活動になっていない授業場面では一緒に目を閉じて触感を確かめたり、他者を意識できていない場面では互いをつなげるような働きかけをしたりしていく。一方で、イメージを伝え合ったり新たな見方や感じ方に気付いたりする場面があれば、学習の成果として価値付けていく。【授業分析・評価力】

(2) 学習者が作るループリック例

教師が提示しためざす子ども像に沿って、児童が教師と相談しながら、例えば次のようなループリックを作成し活動に臨む。できたよ欄に印を付け、個数やメモの記述をもとに、自己評価をする。

できたよ <input checked="" type="checkbox"/>	やってみよう	メモ (気付き)
	音楽を聴いたことを形にできたよ	
	触った感じを形にできたよ	
	オノマトペなどのことばを言えたよ	
	友だちのやっていることのおもしろさに気付いたよ	
	たのしめたよ	
	(そのほか、自分でつくった目標)	

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (◆評価)
<p>1. 学習課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを見て、めあてと評価を想起する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて：見えない人と一緒に作って、ワクワクイメージを楽しもう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに、めざす子ども像やループリック作成を行い、ワークシートに記録しておく。
<p>2. 曲を聴いて造形イメージを膨らませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白いリズムだな。曲が途中で変化しているな。 ・誰が何をしているのかな。もう一回、聴きたい。 ・イメージは湧くけれど、何を使って、どう表そう。 ・この木片を選んだのは、カチカチした感じを表せそうだから。 ・イガイガのモールも、モコモコのモールもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 画家パウル・クレーの絵画をもとにした、作曲家加古隆の曲を用いることで、音楽的・造形的なイメージを広げやすくする。 ○ 実際に材料に触ることで、見た目だけでなく触感から材料を選べるようにする。 ○ 触感をオノマトペ等で言語化する姿を、材料や表現を考える良い方法だと価値付ける。
<p>3. 造形活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちがくっつける時に、支えてあげよう。 ・材料は何が良いと思うかゲストに訊いてみよう。 ・ゲストの言葉が、イメージのヒントになった。 ・聴いた曲をもとに、みんなで一つの作品をつくるとしたら、○○な感じに作ったらいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲をBGMとして流すことで、反芻して聴きながら造形表現に向かえるようにする。 ○ 触覚を意識していない児童や造形活動に入れない児童に対しては、一緒に目を閉じて触感を確かめたり、考えるよりもまず手を動かして材料に触ってみることを勧めたりする。

<ul style="list-style-type: none"> ・丸めたり，伸ばしたり，結んだりしていろいろ試したい。 ・曲が変わるところは，どうやって作ろうか？ <p>4. 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ループリックに照らした自己評価を行う。 ・思った通り表すのは難しかったが，面白かった。 ○児童の気付きとゲストの気付きを交流する。 ・違って当たり前なのだと思います。 ・曲からイメージできたけれど表現が難しかった。 ○次時に向けて，簡単な片付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲からイメージした事物を言語化したり，曲に照らして触感が合う材料を探したりしている児童を価値付け，よさを全体に広げる。 ◆ 感覚を働かせたり，他者と造形活動に取り組んだりしている。【思考・判断・表現】 ○ 気に入った部分の紹介場面を設けたり，活動を言語化したりすることで，自己評価しやすくする。 ○ 自他の違いをよさや面白さと捉えたり，イメージを伝え合ったり，新たな見方や感じ方に気付いたりする姿があれば，価値付ける。 ○ 仕上げに向けて，改善点や目標を共有する。
---	--

【引用・参考文献】

新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会（2019）『感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業平成30年度実績報告書』（株）京都こびい。

視覚に障害のある人とつくるアートプロジェクト実行委員会 2023『ミーツ×ミーツ×ミーツ-視覚に障害のある人・ミーツ・マテリアルの記録-一緒につくる。協働する。とか。』アトリエみつしま。

広瀬浩二郎（2022）『世界はさわらないとわからない「ユニバーサル・ミュージアム」とは何か』平凡社，pp.18-19。

文部科学省（2018）小学校学習指導要領（平成29年告示）東洋館出版社，pp.129-130，p.134。